

2011年春休み JY イタリア遠征レポート

「前に向かって突き進め！！」

1998年に三井千葉サッカークラブが春休みの期間に欧州遠征を開始して14年目、来年度より対象学年が中学1年生（新2年生）に移行することにより、新3年生が9名・新2年生が28名・引率指導者は監督石川公久・山崎篤史コーチによる39名での遠征となった。2年間のスペイン遠征から3年ぶりのイタリア遠征となった。私自身も2004年に現在J1山形に在籍する山田拓巳らの年代を引率してから7年ぶりのイタリア遠征となる。前回遠征では山田が40Mの直接FKを決め0対3から4点奪い逆転勝利に導いたプレー・試合を思い出す。山田はその後Jリーガーへと成長していった。今回の遠征も選手成長の礎になればと期待が膨らむ。

3月27日日曜日、中村コーチに車で送ってもらい成田空港朝6時半到着、早朝のためチケット発券・荷物預けに時間がかかりながらも見送りにきていただいた保護者の方々・STAFFらの関係者と別れ出発。韓国ソウルまでは2時間、韓国で一向は2つに別れ山崎コーチと2年生24名の25名がローマ直行、私と3年・2年生選手14名がフランスパリを経由しイタリアローマを目指す。フランスパリでは英語とボディランゲージでフランス人の空港職員にローマまでのチケットを発券しローマ行きに乗り込み22時ローマへたどり着いた。空港で荷物を受け取るために待っていると選手の荷物が出て来ず、空港事務室に行きここでも同様にイタリア人空港職員に手続きを取り乗り切る。空港の外で今回通訳として一緒に帯同してくれるフレスカ神戸の井上さんとイタリアサッカー協会のセルジオコーチと会い、直行便の選手達と半日ぶりに合流、ローマより我々の宿泊するナルニまで約90分、ホテルに到着したのは夜中の12時を過ぎていた。用意されていた軽食をとり、シャワーを浴び就寝となる。

今回、我々のベースキャンプとなるナルニは「ナルニア国物語」のモデルとなる街で山の上に石畳の遺跡や神殿が見えます。宿泊所のTELA UNMBA HOTEL 4つ星ホテルで食事はホテル内にあるこの地域の有名なレストランでとります。イタリアの食事は通常朝食はパンと飲み物だけだが、今回は生ハム・ゆで玉子・ヨーグルト・コーンフレークなど種類は豊富、昼と夜の食事はパスタで始まり肉料理・デザートと選手はご機嫌で満足していました。

練習環境は隣接しているホテルのロングパイル人工芝サッカーグラウンドが部屋から徒歩1分、5日間午前中はイタリアサッカー協会マッシモコーチを中心にトレーニングと午後は試合、さすがに5日間連続はきついが、移動に体力を使うことなく充実したトレーニング

グと試合を行うことができた。

今回のトレーニングはマッシモコーチと我々STAFF とミーティングを行い、 **ポゼッション ゾーンプレス ゴール前のトレーニング**を行った。トレーニングのメニューも我々が普段行っているグローバルトレーニングと異なることとなく選手も違和感はないようだが多少イタリア人と日本人のサッカー感の違いがある、選手が一番困っていたのは**戦術トレーニングのシュミレーショントレーニングで相手 DF がプレッシャーを本気でかけていない時に試合を想定してプレーができていない**、井上さんの話だとイタリア人のコーチが行うこのシュミレーショントレーニングはどこの日本のチームも初回は同じようだ。又、グリットの外にサーバーやフリーマンとなる選手がなかなかグリット内の選手と関わらず頭が休みとなっていることが多く、この点は**100%の力でプレーしていない**とイタリア人コーチは感じているようだ。私はトレーニングの条件次第でグリット外の選手が中の選手と関われると思うが、ボールがない時のプレーの準備とゆうのは常に習慣づけられることが大事なことだと考えている。トレーニングは人数も多いため半面で同じ内容で行うが私がフィールドプレイヤーの選手を2つのグループに分け、レベル別にA・Bチームにして行った、1日だけ午後の試合の3チームのメンバー11人で3回にわけフォーメーショントレーニング、ゴールキーパーは毎日キーパーコーチがフィールドプレイヤーと別でトレーニングを行った。マッシモコーチはトレーニング開始の90分前には必ず来ていてトレーニングで使用するコートやグリットの準備を全てすませて選手の身体を動かしている様子を観察していた、私を含め若手のコーチ達には**トレーニングの準備や姿勢は見習うべき点**である。試合はホテル内の場合は3チームのメンバーを発表し試合の時間にあわせて集合・アップ・試合・クールダウンをチームごとに行った。3年生中心のAチームはレギュラー選手全員が今回の遠征には帯同できなかったがサブのメンバーの底上げと新2年生のメンバー組み入れを計りクラブユース予選にむけ2つのフォーメーションのシュミレーショントレーニングを行うことができ順調にチーム作りを行うことができたがレギュラーメンバーが確実に全員揃えば更にセリエAクラスの強い相手との試合の要望が強くだせるのだが、Aチームの試合はかつて中田英俊も在籍していたペルージャの下部組織と引き分けだったが4勝1分、技術レベルが高くポゼッションでグラウンドの横幅を広く使い、**レベルが高いチームと評価**された。新2年生は最初の3日間ボールは支配するも決定機が作りだせずBが3連敗4日目5日目は連勝、Cも98年生まれのチームに1勝するも引き分けと連敗、Aチームと同じく質の高いポゼッションを見せているが**ゴールを目指していく気持ちの部分や縦を使った速い攻撃が今後の課題**となっていくだろう。今回の遠征では新3年生と新2年生のメンバーで来ているが新2年生は身体の成長度の違いもあるため3学年の選手を連れてきているようであった。

対戦したテルナーナの育成組織の責任者から印象を聞いた「イタリア人コーチから見た

日本のチームの印象は敵のいない所でのドリブルやリフティングなどのボールコントロールの技術は素晴らしいが相手がいる中ではその技術が発揮できていないように感じられる、常に試合の状況を考え試合で発揮できる技術を身につけ高いレベルのトレーニングと試合を繰り返せば日本のサッカーは我々イタリアのサッカーを凌ぐレベルに達することだろう」と話をしていた。5日間我々のトレーニングと試合を見てくれたマッシモコーチが Mitsui を見た感想はポゼッションの質が高くグラウンドの幅を使って攻撃をしてくるが**ボールを失った瞬間の切り替えが遅い・DFラインの選手もボールを持っている選手を見ていない場面があった、攻撃は縦の速さも加われれば相当高いレベルの試合で勝ち抜いて結果もでるだろう**と話をしていた。(3年生のチームはこの指摘のとおり、このシーズン最終的に守備の切り替え、攻撃の推進力に磨きが懸かりある程度の結果も残すことができた。)選手1人1人は審判の判定や仲間の選手に対して口汚く文句を言い合うことなく高い教養を持っており、素晴らしい指導や教育を受けていることがわかる。選手の評価を見ると11番津田・10番安藤は高い技術を持っているがチームの勝利のために簡単に仲間を使うべき場所で使えていない大事な場所で力を使いきってしまっている、そのプレーが改善されていけばセリエBでプレーできる選手になっていくだろう。(ちなみにイタリアではセリエEで関東リーグなどの地域リーグレベル、月給がもらえる選手で30万円くらい平均15万、イタリアのサラリーマンの月給の平均が15万、セリエEの選手で用具の用意・洗濯など全てやってくれる。セリエAは当然各国の代表レベルの選手がそろふ。)対戦したペルージャの育成責任者の方かはその試合で得点を決めた25番御船選手の速さのなかでの技術の高さを評価され試合に出場している22人のなかでMan of the matchに選ばれペルージャのペナントをいただいた。テルナーナの育成責任者からは3試合目に出場した中盤の小柄の選手に目についたこのままイタリアに残して育成したいと言っていた、その選手の名は……。

充実した5日間のトレーニングと試合を終えローマ市内のホテルに移動し、ローマ市内を観光した、ローマ市内は最高気温24 最低気温9 と日本と同じ気温、コロッセオやバチカン帝国・トレビの泉を歩いて周る、真実の口では恐る恐る手をいれている選手もいた。ローマ市内ではトッティのいる名門ASローマのクラブショップに行き、ASローマのユニホームやキーホルダーを購入していた。大きなショッピングモールにも行き選手は家族や友達にお土産をたくさん抱えていた。市内観光で選手に人気だったのはやはりジェラード2段や3段重ねほおばっていた。

今回の遠征で1つだけ残念だったのはセリエA観戦が中止となってしまったことだ。学校の始業日の関係で飛行機搭乗時間に試合が開催されるローマvsユベントスが観戦できず、代替カードの首位にいたナポリvsラツォ戦は現地の新聞でも我々が観戦に行くことを紹介されていたが熱狂的なサポーターがいるナポリでの観戦は危険だと判断、コーデ

ィネートしてくれたイタリアサッカー協会の方からも謝罪され、外国で選手を危険にあわすわけにはいかず、観戦中止を了解した。ナポリ v s ラツツオ戦は試合時間も現地では警戒されていて午後の試合開始予定が朝 11 時に試合時間が変更された。スタジアムでの観戦が中止となったのでローマ市内のレストランでミラノダービーを皆で観戦、我々が遠征する 2 ヶ月前にインテルに移籍した長友選手の出場が期待されたが AC ミランパトの開始早々の先制ゴールで 3 対 0 となり、長友の出場はなかったが迫力ある試合であった。街の試合場でもナポリの育成年代の試合も見にいった。観覧席にはスカウトの姿もあり、U15 の年代ながら高校生くらいの体格の選手の試合自分達が対戦したらどのような試合になるのかまたどうすれば自分達が勝てるのか選手も私も試合をみながら考えていた。

イタリアローマ空港からフランスパリ・韓国ソウルを経由し 4 月 4 日夜成田空港に到着しイタリア遠征が終了した。大震災の後、我々が前に進んでいくことを快く送り出してくれた保護者の方々や年度末の多忙期に日本で指導してくれていた STAFF に感謝するとともに 7 泊 9 日の遠征の充実感と新しく始まるシーズンにむけ身の引き締まる帰国となった。

このシーズン U15 のチームは千葉県予選を力強く突破、クラブユース関東大会・高円宮杯関東大会のダブル出場を果たし、FC 東京 U15 深川・むさしの両チームと対戦 P K 戦と接戦で敗れたが力はだせたシーズンであったと思う。

多くのメンバーが遠征に参加した来年度中心となる U14 のチームのメンバーも新シーズンにむけ頑張っている。

選手達にはこの経験を忘れず今後のサッカーや学業への取り組みへの励みとして前につき進んでいってもらいたい。

三井千葉 SCJY
監督 石川 公久